
2018年度 経営計画の概要

「日本一のエネルギーサービス」を
提供する企業グループ

～ やっぱり! エネルギーは 九電グループ ～

2018年4月
九州電力株式会社



九電  グループ
ずっと先まで、明るくしたい。

はじめに

- 当社グループは「ずっと先まで、明るくしたい。」をブランドメッセージとする「九電グループの思い」のもと、低廉で良質なエネルギーをお客さまへ安定してお届けすることを通じてお客さまの生活や経済活動を支え、九州とともに成長を続けてまいりました。
- 2017年6月には、グループ大で達成すべき財務目標の公表を行い、原子力発電所の早期再稼働、あらゆる収支改善対策、電力・ガスの小売全面自由化を勝ち抜くための取組み、イノベーション推進による新規事業創出など、最大限の努力を傾注してまいりました。
- エネルギー事業を取り巻く環境が変化し続ける中、お客さまや投資家の皆さまに対して当社グループの経営姿勢をさらに明確にし、経営革新への取組みを一段と加速化していくため、このたび、具体的な行動計画として「2018年度 経営計画の概要」をとりまとめました。
- 今後も、「九電グループの思い」および中期経営方針に掲げた「『日本一のエネルギーサービス』を提供する企業グループ」の実現を目標として、グループ一体となった取組みを進めることにより、持続的な成長を目指すとともに、更なる企業価値向上に努めてまいります。

2018年4月 九州電力株式会社

九電グループの思い

ずっと先まで、明るくしたい。

「快適で、そして環境にやさしい」
そんな毎日を子どもたちの未来につなげていきたい。
それが、私たち九電グループの思いです。

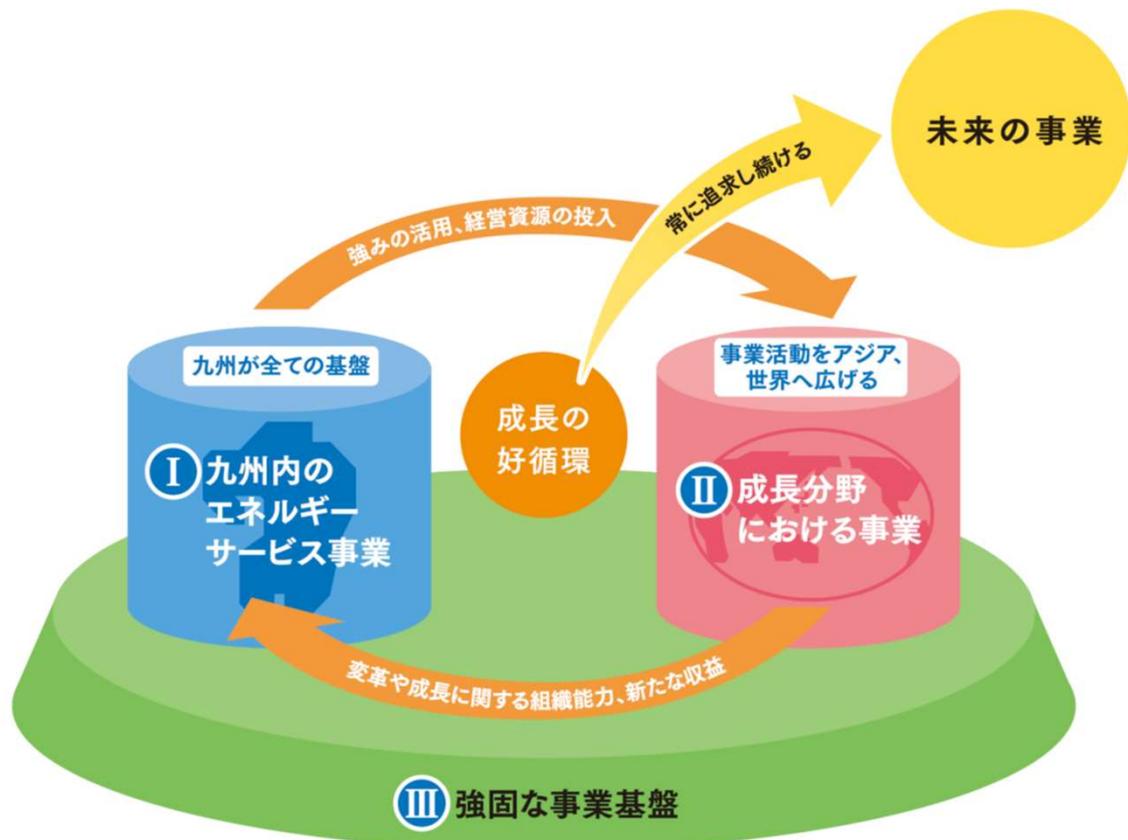
この思いの実現に向けて、私たちは次の4つに挑戦しつづけます。

1. 地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりと
2. 「なるほど」と実感していただくために
3. 九州とともに。そしてアジア、世界へ
4. 語り合う中から、答えを見出し、行動を

2030年のありたい姿

「日本一のエネルギーサービス」を提供する企業グループ
～やっぱり！エネルギーは九電グループ～

ありたい姿に向けた3つの戦略の柱



I 九州のお客さまのエネルギーに関する様々な思いにお応えします

基盤である九州において、「電気をお届けする」会社から「エネルギーサービスを提供する」企業グループとなり、お客さまのエネルギーに関する様々な思いにお応えし、地域・社会とともに発展していきます

II 九電グループの強みを活かして、成長市場で発展していきます

九電グループが培ってきた強みを活かして、海外エネルギー事業、九州域外エネルギー事業、再生可能エネルギー事業で成長していきます

III 強固な事業基盤を築きます

戦略実行に必要な組織力を強化し、強固な事業基盤を築きます

2018年度 経営計画の概要

- 「Ⅰ 九州内のエネルギーサービス事業」、「Ⅱ 成長分野における事業」でグループ体となった事業展開を図るとともに、「Ⅲ 強固な事業基盤」を築き、持続的な成長を目指します。
- 加えて、「未来の事業への取組み」により、更なる企業価値向上に努めます。

戦略の柱Ⅰ：九州内のエネルギーサービス事業

九州のお客さまのエネルギーに関する様々な思いにお応えします

お客さまのライフスタイルに合わせたメニュー・サービスを提案し、「楽しさや感動」を提供します。

お客さまの思いにお応えする 料金プラン・サービス

- ・ 多様化するお客さまのライフスタイルや生活パターンにあわせてお選びいただけるよう、様々な料金プランを準備しています。

顔の見える営業

- ・ ショッピングモール等で「1日営業店」を開催し、より多くのお客さまと直接ふれあいながら当社のサービスを提案しています。

オール電化の促進

- ・ 「快適で、環境に優しく、経済的で、安心」な生活が実現できる「オール電化」住宅の普及に向け、提案活動を積極的に展開します。

福岡・北九州エリアにおけるガス小売事業

- ・ 2017年4月から、福岡・北九州エリアでの都市ガス販売を開始し、電気とのセット契約によるお得なガス料金を提供しています。

ご家庭のお客さま向け
スマートファミリープラン

・2年契約割引(▲777円/年)で
ご使用量に関わらずおすすめ!
(ご使用量が多いとさらにお得)

商店などのお客さま向け
スマートビジネスプラン

・毎月のご使用量が、550kWh以上のお客さまにおすすめ!

夜間や休日のご使用量が多いお客さま向け
電化でナイト・セレクト

・オール電化等のお客さまにおすすめ!
・お客さまのライフスタイルに合わせて、
夜間時間を3つの中から選べます!

- ① 21時～翌朝7時
- ② 22時～翌朝8時
- ③ 23時～翌朝9時



一日営業店の開催
(ショッピングモール)



オール電化
移動実演車
「オールデンカー」

当社グループが保有する経営資源を活用し、社会、生活サービス分野での事業展開を行います。

情報通信サービス事業、生活サービス事業への取組み

- ・ エネルギーサービス事業との関係性やシナジーを踏まえ、グループ企業価値向上などの観点から、事業の競争力強化等に取り組めます。

【主な情報通信サービス事業】

- ・ 光ブロードバンド事業、モバイルサービス事業、法人向け通信サービス事業
- ・ 情報資産を安心・安全にお預かりするデータセンター事業 など

【主な生活サービス事業】

- ・ オール電化分譲マンション・住宅の開発事業
- ・ 建築確認検査や住宅性能評価などの適合性評価事業 など



グランドオーク寺塚サウス
(オール電化分譲マンション)

競争力と安定性を備えた電源の確保に努めるとともに、燃料調達力の強化に取り組めます。

競争力と安定性を備えた電源の確保

- ・競争力と安定性を備えた電源を確保するため、松浦発電所2号機(石炭火力 100万kW)の開発に取り組んでいます。[2019年12月運転開始予定]
- ・高効率な発電方式の採用など、環境にも最大限配慮していきます。



発電所所在地

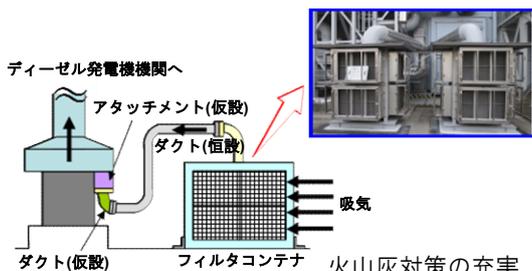


2号機の開発状況(2018年3月撮影)

原子力発電の更なる安全性・信頼性の向上に継続的に取り組めます。(安全の取組みは8ページ参照)

原子力の安全性・信頼性向上への継続的な取組み

- ・川内原子力発電所1、2号機の安全・安定運転に万全を期すとともに、安全性・信頼性の向上に自主的かつ継続的に取り組めます。
- ・また、玄海原子力発電所3、4号機の再稼働にあたっては、一つひとつのプロセスを安全最優先で進めると共に、地域の皆さまに安心いただけるよう積極的な情報公開と丁寧なコミュニケーション活動に努めます。



火山灰対策の充実



資材保管用コシケの固縛(竜巻対策)



地域の公民館等での対話

電力システムの安定運用や送配電設備の着実な保全により、電力を安定的にお届けします。

再生可能エネルギー連系増加を踏まえた需給運用

- ・火力発電の出力抑制、昼間の揚水運転などの運用面の対応により、天候や時間によって発電量が大きく変化する再生可能エネルギーを最大限受入れるよう取り組んでいます。

ドローンの活用による保全業務効率化

- ・現在、ドローンの活用による送配電設備の巡視等の検証を行っており、今後、更なる適用箇所拡大を目指します。



ドローンによる設備確認

2018年度 経営計画の概要

戦略の柱Ⅱ：成長分野における事業

九電グループの強みを活かして、成長市場で発展していきます

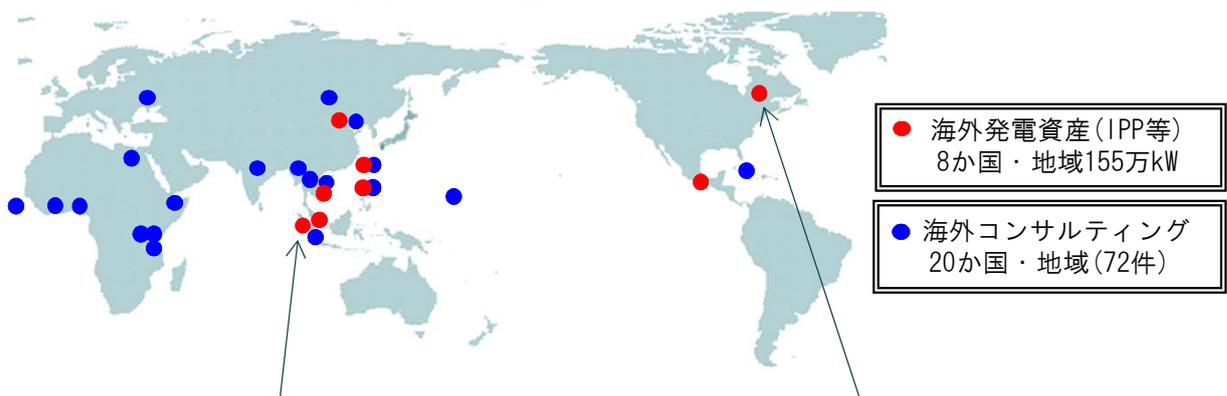
国内外で蓄積した技術・ノウハウを活かし、市場の成長性が高いアジアを中心に海外事業を展開します。

海外電気事業の展開

- ・ 2030年の目標達成に向け、電力需要の拡大が見込まれるアジアの案件を中心に開発するとともに、欧米の案件にも取組み、海外電気事業の拡充を図ります。
- ・ 新興国における高効率石炭火力発電所の事業性調査などの、海外コンサルティング事業についても積極的に実施していきます。

2030年の発電事業持分出力目標：500万kW [155万kW(2018年3月末時点)、240万kW(2021年時点)]

〔海外電気事業の取組み〕

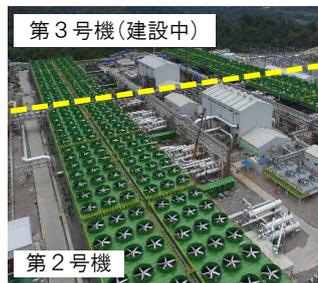


～ サルウラ地熱 I P P プロジェクト ～ (インドネシア)

〔初号機全景〕



〔第2号機/第3号機〕



〔プロジェクトの概要〕

事業内容	地熱資源開発から発電までの一貫開発 30年間インドネシア国有電力会社へ売電
出力	32万kW(3系列)
出資者	当社(25%)、伊藤忠商事、メドコパワー、 国際石油開発帝石、オーマツト
運転開始	初号機:2017年3月、第2号機:2017年10月、 第3号機:2018年(予定)

～ バーズボローガス火力発電所 ～ (アメリカ)

〔発電所全景(建設中)〕



〔プロジェクトの概要〕

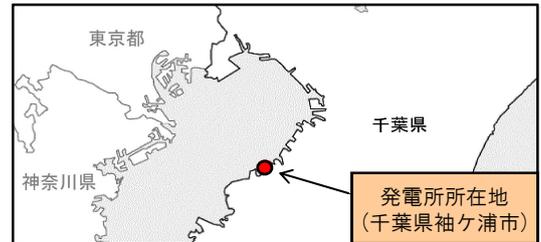
事業内容	ガスコンバインドサイクル発電方式 による卸電力市場への売電
出力	48.8万kW
出資者	当社(11.1%)、双日、東京ガス、 Ares EIF
運転開始	2019年(予定)

他社とのアライアンス等により、九州域外に自社電源を開発し、九州域外での電気事業を展開します。

他社とのアライアンスによる、九州域外での自社電源開発

- ・ 出光興産(株)及び東京ガス(株)と三社共同で設立した(株)千葉袖ヶ浦エナジーが、千葉県における石炭火力発電所開発に向けた検討と環境影響評価の手続きを進めています。

所在地	千葉県袖ヶ浦市中袖3-1他
発電方式	超々臨界圧 (USC) 方式
出力	総出力200万kW(1号機:100万kW、2号機:100万kW)
燃料	石炭(バイオマス混焼なども検討)
運転開始	1号機:2025年度(予定)、2号機:2026年度(予定)



2030年の域外電源開発量目標：200万kW

九州域外における電力小売販売の展開

- ・ 九電みらいエナジー(株)(100%子会社)による関東エリアでの電力小売を展開しています。
- ・ 九州に暮らすご家族がいらっしゃる方に「九州親孝行サポート」をPRするなど、積極的な営業活動を展開していきます。



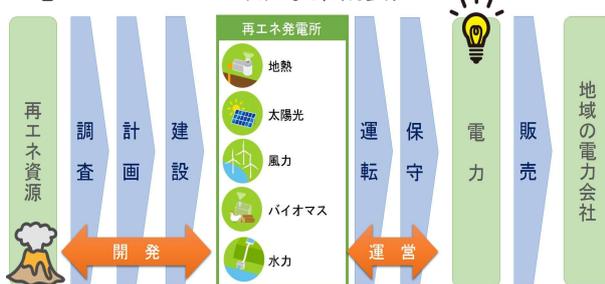
関東エリアにおけるオプションサービス (九州親孝行サポート)

再生可能エネルギー事業を、九電グループ一体となって積極的に展開します。

九電みらいエナジーによる、再生可能エネルギーの積極的な開発と運営

- ・ 九電みらいエナジー(株)は当社と連携し、再生可能エネルギー電源について調査、計画から建設、運営管理まで一貫した技術・ノウハウを活用することにより、幅広いニーズにワンストップで対応しています。

〔九電みらいエナジー(株) 事業概要〕



〔バイオマス発電・洋上風力発電への取組み事例〕

響灘における洋上風力発電の事業化検討

山口県

福岡県

大分県

下関市での木質バイオマス発電事業

定格出力	74,980kW
燃料	木質ペレット
運転開始	2022年1月予定

豊前市での木質バイオマス発電事業

定格出力	74,950kW
燃料	パーム椰子殻 木質ペレット
運転開始	2020年1月予定

今後の政策動向等を見据えたりスク分散、ポートフォリオ構築

- ・ 今後の政策動向等を見据えつつ、これまで蓄積した技術やノウハウを活用し、バランスの取れた再生可能エネルギー開発、導入を国内外で積極的に進めます。

水力発電所の開発 (新甲佐発電所リニューアル)



定格出力	3,900→
出力	7,200kW
運転開始	2019年
	7月予定

2030年の九電グループ 開発量目標：400万kW [195万kW(2018年時点)、330万kW(2021年時点)]

2018年度 経営計画の概要

戦略の柱 Ⅲ：強固な事業基盤

強固な事業基盤を築きます

お客さまや地域の皆さまのニーズを察知し、迅速・柔軟に対応できる組織・業務運営体制を構築します。

自律的な業務運営を推進し、競争を勝ち抜くための組織・業務運営体制の構築

- ・ 経営環境の変化等に適切に対応するため、今年7月に以下のとおり組織を改正します。

新組織	目的
玄海原子力総合事務所	玄海エリアにおける自治体や地域の皆さまの「安心」につながるコミュニケーション体制を強化します
廃止措置統括室 (原子力発電本社内)	運転を終了した原子力発電所(玄海原子力発電所1号機)の廃止措置計画を安全かつ着実に進めます
インキュベーションラボ (コーポレート戦略部門内)	新たな事業やサービスを生み出すためのプロジェクト「KYUDEN i-PROJECT」の取組みを加速します

法的分離への対応

- ・ 2020年4月の法的分離に際しては、送配電部門の一層の中立性を確保するため、一般送配電事業を分社化し、送配電会社を設置することを基本に検討を進めます。

グループ全体でのコミュニケーションの活性化

- ・ グループ全体での双方向サイト(「つながる」サイト)を活用し、創意工夫あふれる好事例を共有しています。
- ・ これにより、グループ全体での一体感醸成と、変革・挑戦する人づくりを推進していきます。

グループ大で共有

九州電力社員

グループ会社社員

グループ大で好事例を投稿
・安全、働き方改革に関する取組み
・お客さまからの声 など

「つながる」サイト(グループ全体での双方向サイト)

徹底した効率化による収支改善、技術開発の推進による競争優位性の構築に取組みます。

徹底した効率化、調達機能強化に向けた取組み

- ・ 社外専門家を含む委員で構成する「調達改革推進委員会」からの意見・助言等も活用しながら、VE活動^{※1}やフィールドスタディ^{※2}等による調達機能強化に取り組んでいます。
- ・ 2017年4月から、発注規模が大きい資機材や工事等について、現地・現物で原価改善活動を行う専任者を配置し、サプライヤーと協働した活動を行っています。

※1 製品やサービスの価値を機能とコストで把握し、システム化された手順で価値の向上を図る活動
 ※2 現場調査を実施し、コストの可視化や改善項目の抽出を通じてコスト低減につなげる活動

競争優位性構築に向けた技術開発の推進

- ・ 九電グループの競争力強化のため、既存事業領域での事業基盤強化に資する技術開発と、新規事業領域への進出に向けた技術開発を両輪として取り組んでいきます。

全ての事業活動の基本として、安全・安心を最優先します。

徹底した安全の取組み (九電グループ安全行動憲章の制定)

- ・「経営の基盤である安全」に関わる取組みを一丸となって推進するため、2017年12月に「九電グループ安全行動憲章」等を制定しました。

【九電グループ安全行動憲章】

九電グループは、事業に関わるすべての人たちの安全を守り、その先にある安心と信頼につなげることを目指します。

このため、労働安全、設備保安の観点から、経営の基盤である安全を最優先する企業活動に向け、次の5つの行動を徹底します。

- | | |
|---------------|----------|
| 1 安全の創造と進化 | 4 自己研鑽 |
| 2 声の反映と情報発信 | 5 DNAの伝承 |
| 3 風通しの良い環境づくり | |

原子力発電所の安全性向上への取組み

- ・原子力発電所において万一の重大事故等が発生した場合に、あらゆる事象に速やかに対応するため、さまざまな訓練を繰返し実施し、対応能力の維持向上に努めています。



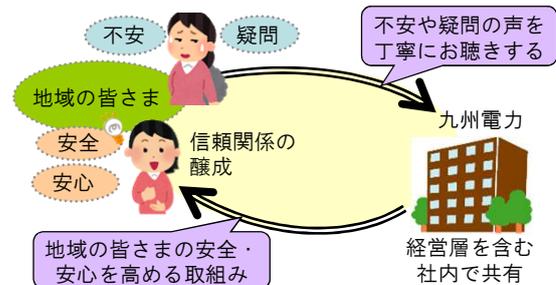
運転シミュレータを使用した緊急時の運転操作訓練



代替緊急時対策所での原子力防災訓練

原子力に関する地域の皆さまとのコミュニケーションの充実

- ・さまざまなコミュニケーション活動の中で、地域の皆さまの不安や疑問の声を丁寧にお聴きします。
- ・地域の皆さまの声を経営層を含む社内で共有し、地域の皆さまが『安全である』『安心できる』と感じられる取組みにつなげていきます。



CSR(企業の社会的責任)経営を徹底します。

事業活動と環境を両立する環境経営の推進

- ・持続可能な社会の構築に向けて、電気を送る側と使う側の両方から、電気事業全体のCO2排出抑制目標達成を目指し取組みます。

地域の皆さまとの協働による取組み

- ・一般財団法人「九電みらい財団」を中心に、「環境」「次世代育成支援」活動を充実します。
- ・また、地域の皆さまと協働し、九州各地でのボランティア活動「こらぼらQでん」などにより、「地域の課題解決」に取組みます。



坊ガツル湿原の野焼き(輪地切り)



城壁の清掃(佐賀城[佐賀県佐賀市])

働き方改革及び健康経営の推進

- ・従業員が活力を持ち仕事に取り組める環境づくりや効率化による労働生産性の向上、チャレンジできる組織風土への変革に向け、働き方改革に取り組んでいます。
- ・従業員の健康保持・増進に向けた取組みが評価され、経済産業省と日本健康会議による「健康経営優良法人2018」の認定を受けました。また、従業員の心身ともに健康で充実した生活を支援する経営の方向性を示す「九州電力健康宣言」を行いました。今後も、働き方改革及び健康経営を推進していきます。

2018年度 経営計画の概要

未来の事業に向けた取組み

九電グループの社員一人ひとりが互いにつながりチームとなって、九州から世界を変えていくイノベーションを生み出していきます。

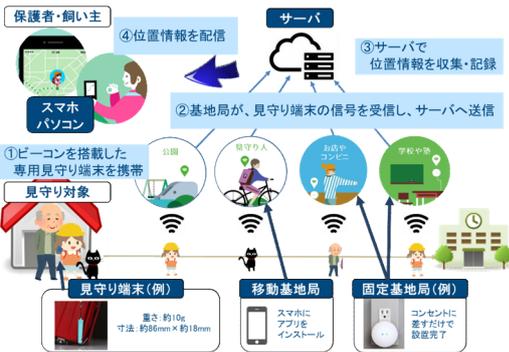
新たな事業・サービスの創出に向けて、九電グループ全体で取組みます。

九電グループの成長に繋がるイノベーションの創出

- ・グループ全体のイノベーションを推進し、新たな事業やサービスを生み出すためのプロジェクト「KYUDEN i-PROJECT」に取り組んでおり、有望案件の事業化やサービス化に向けた検討を加速するなど、イノベーションの取組みを拡大・強化するために、2018年7月に、新組織「インキュベーションラボ」を設置します。
- ・イノベーションの取組みを通して、九州地域の発展や社会・お客さまの課題解決につながる価値の創造を目指します。

九電グループ横断の取組み

「イノベーション創発ワークショップ」から生まれたビジネスアイデア「見守りサービス『Qottaby』」



他企業等との共創（オープンイノベーション）

「九州電力アクセラレーター2017」で2次セレクションを通過したスタートアップ企業（今後、実証実験を順次実施予定）

(株)Z-Works、ライフログテクノロジー(株)、ユニロボット(株)、空き家コンサルティング(株)、(株)ナイトレイ、ワークシフト・ソリューションズ(株)、ためま(株)、(株)マッシュルーム、(株)Moly、Hmcomm(株)
(計10件)



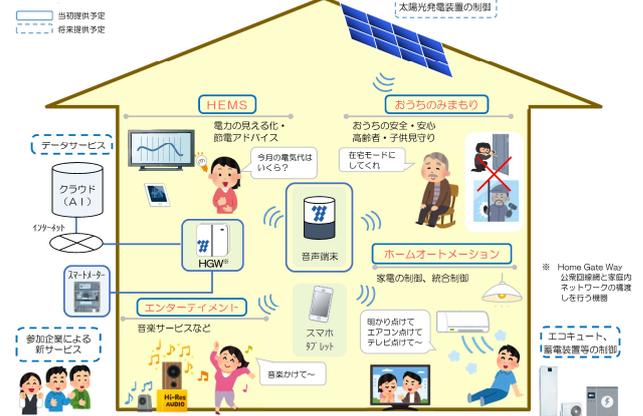
音声端末を活用したIoTサービス事業

- ・IoT (Internet of Things) 技術やAI (人工知能) を活用したIoTサービスについて、今夏を目途に事業を開始します。
- ・当社の音声端末やIoTサービス基盤を通じて、新しい生活体験を実現します。



当社の音声端末

IoTサービスの概要（イメージ）



都市開発事業への取組み

- ・近年、大型化・多様化する都市開発プロジェクトへの対応を強化するため、戦略・計画を立案する担当部署を設置しました。
- ・福岡地区を中心とした九州各地の大型事業を対象とし、プロジェクトへの投資や、エネルギー・ICTの活用など高い付加価値サービスの提供も視野に、都市開発分野へ積極的に参入します。



《参考》

グループ会社一覧 <89社>

(2018年3月31日現在)

【エネルギー関連事業】

子会社
 関連会社

[設備の建設・保守] <11社>

九州林産株 九電産業株 株プラズワイヤー	(株)九電ハイテック 西日本技術開発株 西技測量設計株	西日本プラント工業株 西技工業株	(8社)
(株)九電工	西九州共同港湾株	(株)九建	(3社)

[資機材の調達] <7社>

九電テクノシステムズ株 光洋電器工業株	西日本空輸株	九州高圧コンクリート工業株	(4社)
(株)キューヘン	誠新産業株	西日本電気鉄工株	(3社)

[エネルギー事業] <43社>

(株)キューデン・インターナショナル 九電みらいエナジー株 長島ウインドヒル株 下関バイオマスエナジー合同会社 キューデン・サルラ パシフィック・ホップ・シッピング・リミテッド 宗像アスティ太陽光発電株	大分エル・エヌ・ジー株 串間ウインドヒル株 (株)福岡エネルギーサービス キューシュウ・エレクトリック・オーストラリア社 キューデン・インターナショナル・ネザランド キューデン・パースボロー 奄美大島風力発電株	北九州エル・エヌ・ジー株 西日本環境エネルギー株 みやざきバリエーションサイクル株 キューシュウ・エレクトリック・ウイットストーン社 九電新桃投資股份有限公司 鷲尾岳風力発電株 キューデン・イラン・ホールディング・コーポレーション (21社)	
戸畑共同火力株 九州冷熱株 エレクトリタ・ソル・テ・トックスパソ社 ひびきウインドエナジー株 (株)バイオコール熊本南部 新桃電力股份有限公司 大唐中日(赤峰)新能源有限公司 セルビオス・デ・ネゴシオ・デ・エレクトリタ・エン・メキシコ	(株)福岡クリーンエナジー キューシュウ・トウホク・エンリッチメント・インベストメント社 ソヤノウッドパワー株 日豪ウラン資源開発株 豊前ニューエナジー合同会社 双日パーズボロー サルラ・オペレーションズ	大分共同火力株 エレクトリタ・アキラ・テ・トックスパソ社 (株)千葉袖ヶ浦エナジー 北九州エル・エヌ・ジー・ローリー販売株 ライオン・パワー(2008) フーミ・3・BOT・パワー・カンパニー オリエン・エコ・エナジー社	(22社)

【社会・生活サービス事業】

[情報通信事業] <7社>

(株)Q T n e t 九電 ビジネスソリューションズ株	(株)キューデンインフォコム (株)アル・ケー・ケー・コンピューター・サービス	ニシム電子工業株 (株)RKKCSソフト	(6社)
(株)コアラ			(1社)

[環境・リサイクル事業] <2社>

(株)ジェイ・リライツ	記録情報マネジメント株	(2社)
-------------	-------------	------

[生活サービス事業] <19社>

(株)電気ビル (株)キューデン・ゲット・ライフ熊本 (株)キャピタル・キューデン (株)九電オフィスパートナー (株)九電シェアードビジネス	(株)キューデン・ゲット・ライフ (株)キューデン・ゲット・ライフ鹿児島 (株)九電ビジネスフロント 九州メンテナンス株 (株)九州字幕放送共同制作センター	(株)キューデン・ゲット・ライフ東福岡 (株)キューデン・ゲット・ライフ福岡浄水 九電不動産株 九州高原開発株 (株)オークパートナーズ	(15社)
九州住宅保証株 緑ヶ丘ビルディング株	伊都ゴルフ土地株	福岡I7ホートホールディングス株	(4社)



ずっと先まで、明るくしたい。

〒810-8720
福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号
(092)761-3031(代表)
ホームページアドレス <http://www.kyuden.co.jp>